



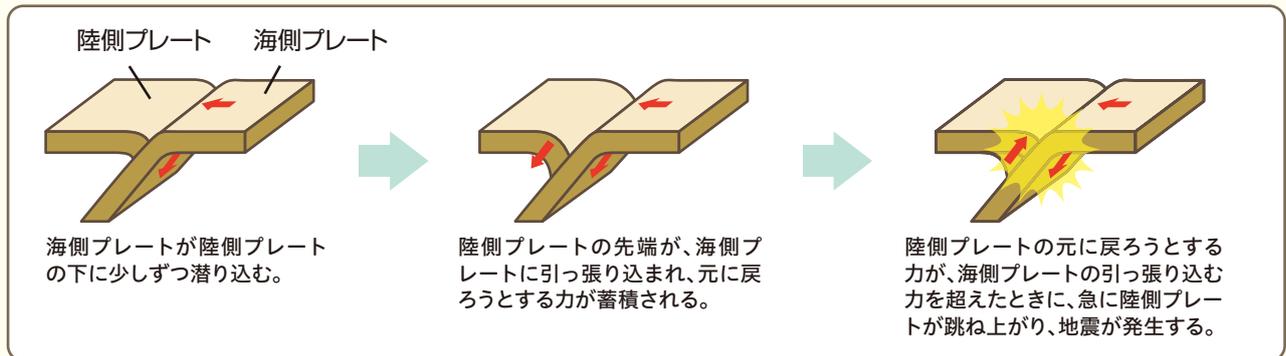
地震対策



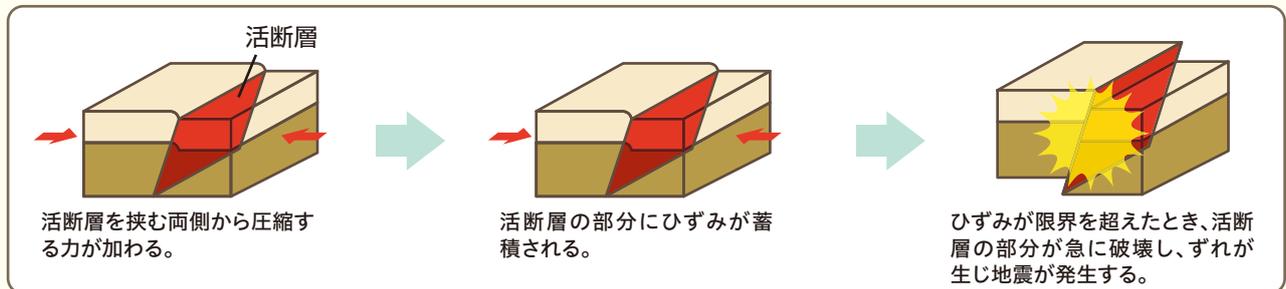
地震発生の仕組み

地震は世界の様々な地域で起こりますが、実は発生の仕組みにより、いくつかのタイプにまとめられます。日本では主に「海溝型地震」と「活断層地震」の2種類の地震が発生しています。

海溝型 地震発生のメカニズム



活断層 地震発生のメカニズム



今後、発生が予測される地震

内閣府では、今後発生が予測される大規模地震について、専門調査会を設置して被害を想定したり防災戦略を立てたりするといった対策を講じています。

また、愛知県においても、南海トラフ巨大地震の被害の想定(津波、液状化、建物の倒壊など)を行っています。さらに、本村においてもこれらの想定を参考にしながら、公共施設などの耐震化の促進や新たな避難所の整備など、防災・減災に向けた取り組みを進めています。

今後、発生が予測される地震に対しては、家屋の倒壊防止や室内の安全対策(P8参照)を行うことで、皆様の命を守り、被害を最小限に抑える「減災」につながります。

	東海地震	東南海・南海地震	南海トラフ巨大地震
今後、発生が予測される地震	駿河湾西岸から遠州灘東部を震源域として、近い将来発生する可能性が高いとされる大地震。マグニチュード8クラスと想定されている。	遠州灘から四国沖の広範囲で発生が予想される大地震。100～150年間隔で発生し、東海地震とも併発のおそれがある。	駿河湾から九州東方沖に延びる海底のくぼみ(トラフ)一帯を震源域とする大規模な地震。科学的に想定し得る最大規模の被害をもたらすおそれがある。

防災・減災の耐震対策

大地震によって、部屋中の家具が倒れ、耐震性の低い建物が倒壊することにより、人が亡くなったりけがをしたりします。また、割れたガラスや散乱した食器などでけがをすることもあります。

いつ大地震が発生しても被害を抑制できるように、建物の安全性や室内の危険箇所などをチェックしておきましょう。

1 家屋の倒壊防止

1 耐震診断を受ける

自分の体の健康診断と同じように家屋も耐震診断が必要です。一般的に昭和56年5月以前に建てられた建物は、耐震性に問題があるといわれています。自分の家が何年に建てられたのかを調べて、該当する場合は耐震診断を受けましょう。

2 必要な補強を行う

耐震診断を受けて耐震性に問題があると診断された場合は、耐震改修工事を受ける必要があります。自分自身や家族の命を守るために、早期に工事を行いましょう。

飛島村においては、愛知県と協力して、昭和56年5月までに着工された木造住宅に対して以下の補助を行っています。

- ・ 無料耐震診断の実施
- ・ 耐震改修工事の補助（工事費と補強計画費で180万円）
- ・ 簡易耐震改修費（リフォーム）の補助（耐震改修工事費（附帯工事費を含む。）の2分の1以内又は30万円の低い方）
- ・ 耐震シェルター等設置費の補助（1台あたりの補助対象経費の4分の3以内又は30万円の低い方、1戸あたりの補助合計上限150万円）

2 室内の安全対策

家具別の転倒防止対策

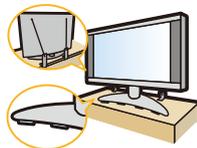
タンス・棚

L字金具、ポール、ストッパーなどを使って、壁・柱・かもしなどに固定します。2段重ねの家具は、重ね留め用金具を使って上の家具の落下を防ぎます。特に、ポールを使用して固定する際は、ストッパーや粘着マットを併用しましょう。



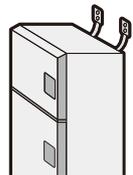
テレビ

できるだけ低い位置に置いて、専用の固定用金具やベルトなどで固定します。壁・床に固定されたテレビ台とテレビを直接固定するのが確実です。



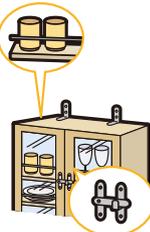
冷蔵庫

専用のベルトで固定します。ベルトは家電量販店などで販売されています。特に、ポールを使用して固定する際は、ストッパーや粘着マットを併用しましょう。



食器棚

専用の扉開閉防止用具をとりつけます。ガラス面には飛散防止フィルムを貼ります。特に、ポールを使用して固定する際は、ストッパーや粘着マットを併用しましょう。



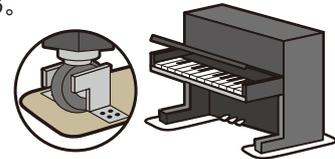
照明器具

つり下げ式の照明は、チェーンや金具を使って天井に固定します。



ピアノ

専用の耐震固定具が販売されています。購入店・メーカーに問い合わせましょう。

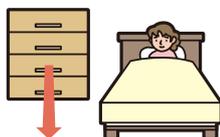


その他の家具などは粘着マットなどで固定します。また、不用なものは処分しましょう。日頃から部屋を片付けておくことで、避難がスムーズになります。

場所別の安全対策

寝室

寝室に倒れそうな家具は置かないようにしましょう。家具がある場合は、ベッドや布団の位置が家具の転倒方向と重ならないように配置しましょう。



出入り口・通路

いざというときの避難路を確保するために、出入り口や通路に荷物を置かないようにしましょう。

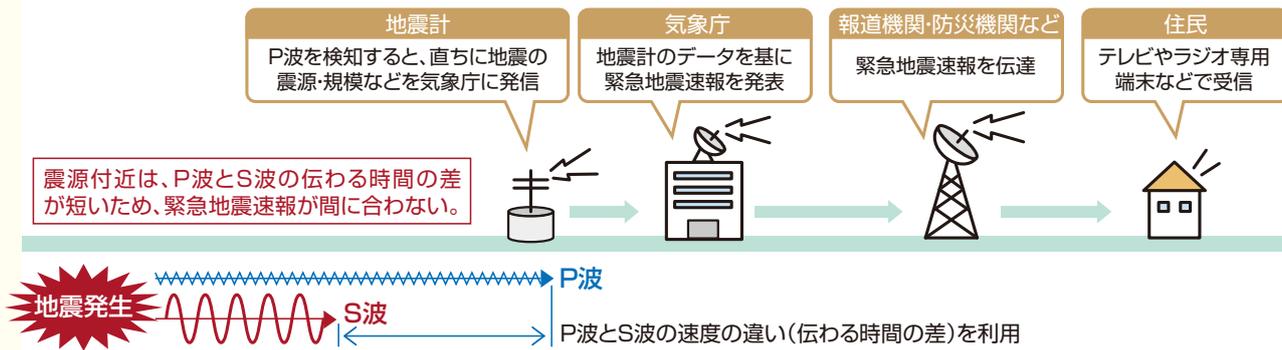


ガラス類付近

窓ガラスは内側に、食器棚や額縁などの家具のガラス面は外側に、飛散防止フィルムを貼りましょう。



地震情報の発信



地震発生後の行動

いざ大地震が発生したときに、冷静に行動するのは難しいものですが、一瞬の判断が生死を分けることもあります。大地震が発生しても慌てず、冷静に対応するための行動パターンを覚えておきましょう。

家の中

1 大地震の発生

自分の身を守る

最初の大きな揺れは1~3分間ほどです。家具の転倒やガラスなどの飛散に注意して、テーブルや机の下などに隠れましょう。慌てて外に飛び出すのは危険です。緊急地震速報が発表されたときは、ドアや窓を開けて避難出口を確保しましょう。



2 揺れがおさまったら

出火防止

揺れがおさまったら、出火防止のためにガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とします。もし出火したら、すぐに消火しましょう。なお、震度5相当以上の地震の場合は、ガスメーター(マイコンメーター)が自動的にガスを止めます。

避難出口の確保と避難

ドアや窓を開けて、避難出口を確保しましょう。非常持ち出し品を手近に用意します。また、避難する際には、ガラスなどの破片から足を守るため、必ず靴を履きましょう。

安全確認

家族の安全を確認しましょう。また、ご近所に声をかけましょう。小さい子どもがいる家庭や高齢者などの災害時要援護者がいる世帯には積極的に声をかけて、安否を確認しましょう。



3 地震発生から3日目くらい

余震に注意

大きな地震の後には余震が発生します。倒壊した家屋には近寄ったり、入らないようにしましょう。また、ブロック塀やガラスにも注意しましょう。

近隣所での活動(自助・共助)

備蓄しておいた食料、飲料水などの生活必需品を利用しましょう。災害発生から3日間は外部の応援・支援は期待できません。ラジオや村の広報などで災害情報、被害情報を確認しましょう。間違った情報に惑わされないように注意しましょう。ご近所同士で協力し合って、消火活動、けが人の救出・救護、災害時要援護者の支援に当たります。



4 地震発生から4日目以降

余震に注意

引き続き余震に注意しましょう。倒壊した家屋には近寄ったり、入らないようにしましょう。

避難所生活

自治会(区長等)や自主防災組織を中心に行動しましょう。集団生活のルールを守り、お互いに助け合い、譲り合いの心をもって行動しましょう。



こんな場所で地震に遭遇したら…

外出先

学校・職場

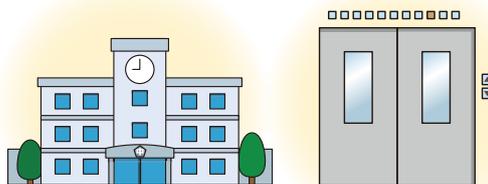
- 頭を保護して、急いで机の下に隠れましょう。
- 自分勝手な行動は避け、先生や上司の指示に従い行動しましょう。

デパート・映画館など

- カバンや手荷物で頭を保護しましょう。
- 商品棚やショーウィンドウから離れましょう。
- 映画館では座席の間や落下物の危険のない壁際などに身を寄せましょう。
- 自分勝手な行動は避け、店員や係員の指示に従って避難しましょう。

エレベーター

- 揺れを感じたら急いで全ての階のボタンを押し、止まった階ですぐに降りましょう。
- 閉じ込められても慌てずに、非常ボタンやインターフォンを使って外部と連絡をとり、救助が来るまで騒がずに待ちましょう。



屋外

路上

- カバンや手荷物で頭を保護しましょう。
- 建物の窓ガラスや看板が落ちてくる危険があるため、頭上に注意しましょう。また、耐震性の低い建物には近づかないようにしましょう。
- 公園や駐車場などの広くひらけた場所に逃げましょう。
- 道路のアスファルトがめくれたり、ひび割れている場所には近づかないようにしましょう。
- 感電のおそれがあるので、垂れ下がっている電線には触れないようにしましょう。

海岸や河口付近

- すぐに海岸や河口から離れ、高い場所へ避難しましょう。津波が襲ってくるかもしれません。
- 近くの避難所に向かいましょう。近くに避難所がない場合は、頑丈な高い建物を探して避難しましょう。
- 津波警報、注意報が解除されたことが確認できるまで避難所や一時的に避難している場所を離れないようにしましょう。また、海岸や河口付近に近づいてもいけません。

車の運転中

- 慌てずに徐々にスピードを落とし、ハザードランプを点滅させて道路の端にとめましょう。
- カーラジオで情報を収集し、ラジオからの指示に従って逃げましょう。
- キーは付けたままで、車の中にある貴重品を持って逃げましょう。ドアはロックせずに開けたまま逃げましょう。

駅

- カバンや手荷物で頭を保護し、柱などにつかまりましょう。慌てて行動してはいけません。
- 駅員や構内アナウンスの指示をよく聞いて避難しましょう。

電車・バス

- つり革やにぎり手などにつかまりましょう。両手でしっかりとつかまってください。
- 勝手に外に出ず、運転手や乗務員の指示に従って避難しましょう。

